



化学部門教員と大学生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(6)

【概要】

令和 6 年 11 月 15 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて、化学部門 長田 聡史 教授と理工学部生命化学コースの大学生らが本年度最後の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、実験を通した理科への興味をきっかけに子供たちの就学意欲を芽生えさせたいという目的で行っています。大学が不登校支援機関に対して行う理科実験教室は全国でも数少ない活動で、これまでに多くの大学生や大学院生がボランティアとして参加してきています。

令和 6 年度第 6 回となる今回は、11 月 15 日(金)に化学部門 長田 聡史 教授とともに、理工学部生命化学コースの学生が、「シュワシュワの泡を作ってみよう！」と題して炭酸ガス発生の実験を指導しました。

まず、家庭でできる炭酸水の作り方として、クエン酸と炭酸水素ナトリウムから二酸化炭素を発生させる実験を行いました。次に、同じ原理を利用し、季節的に冷え始めたこの時期に入浴剤として使えるバスボムを作る実験を行いました。適量の炭酸水素ナトリウムとクエン酸に、固形化のためのハチミツを加え、さらに色付けのための食用色素や香りづけのエッセンシャルオイルを、子どもたちが好みに応じて混ぜました。その後、シリコン型を用いて押し込み成形しましたが、完全に乾燥して固まるまでには時間がかかるため、自作のバスボムは持ち帰ってもらうことにしました。一方、事前に準備しておいたバスボムを使用し、フラスコ内で泡が発生する様子を観察しました。

今回の理科実験教室は今年度最後の開催ということで、教育支援センターの計らいで、実験後に参加者全員の記念写真を撮っていただきました。「また来年も来てほしい」という子どもたちの声に、ボランティアの学生たちも顔をほころばせていました。



「理科実験教室」の様子